

ZF2型オンライン管理システムを用いた、ブドウの根域制限栽培法の提案と栽培指導。同システムをブドウ以外の作物へ実装を行い、収量や品質の向上を目指す。

採択事業者名 ゴールドラッシュ株式会社

コンソーシアム構成員 ゴールドラッシュ株式会社 愛媛大学

勉強会の実施概要

コンソ内部のみ	含む外部
実施回数の累計 31	実施回数の累計 58
参加人数のユニーク累計 33	参加人数のユニーク累計 314(マスコミ視聴者は含まず)

代表的な実施事例

狙いとゴール	本事業の内容を理解してもらい、果樹(主にブドウ)の生産者を新規参入者を中心に増やす。異常気象が続く昨今には適切な灌水機器が必要であることを理解してもらい、ZF2型を利用してA品の生産率を高めていく。
実施の成果	新規実装先を県内で5件獲得。来期の参入を目指す動きが見える。
実施アジェンダ 協議内容	県内企業数社から来期の参入への打診を受ける。松前町からは自治体として取り組みたいとの意思表示を受けている。
参加者の一例	実装先5件、およびコンソメンバー 農研機構関連メンバー、および農業法人協会メンバー 県内の個人および企業
次年度以降の 想定アクション	打診を貰っている先から選定して、実現度が高い案件から実装を行う。



データ活用・協議の具体例

重要指標例	実装前	実装後
ブドウに与える灌水量と施肥量 天候データに基づいた養液管理	ポンプ開閉時間からの逆算により給水量を把握 施肥量は肥料自体の重量を測った 多数の機器を使って天候データを把握	デジタル管理による弁の開閉時間から給水量及び施肥量を測る事が出来るようになった オリジナル開発したZF2型に直結された観測機器が自動で天候データを取得する
データ取得	取得したデータをExcelシートに移して分析	オリジナル開発したZF2型内でデータをグラフ化できるので見やすい データをクラウドコンピューターに転送し、AIによる自動分析が行える
データ活用	データを元にはしているが、農園主の経験と勘によるところが多い	農園主からの事前指示に基づいて、オリジナル開発したZF2型が養液管理を行う 天候等栽培環境の急変時はZF2型が警報を発信するので、農園主は迅速な対応が行える
実行	データ収集を行っている農園主が存在しなかったため、協議できない	ZF2型を導入している農園主同士で意見交換が行える
業務反映		

代表的な実施事例

特許申請中のため明示出来かねます。